

参 考 文 献

- 1) 木村耕三・岩戸次郎, 1959: 上川地方の降雨地界 上川地方総合開発期成会 上川地方における夏季降雨量調査書第3報 5~8.
- 2) K. Osawa, K. Ozaki 1960: Rain Cells on Tsohyetal Maps 日本気象学会機関誌, 気象集誌, 38, 135~147.
- 3) 正野重方・武田喬男, 1961: 雲層下における雨滴の蒸発 昭和36年度日本気象学会総合第2日第2会場.
- 4) 木村耕三, 1952: 気塊及び前線の解析法, 中央気象台, 研究時報, 4, 106~117.
- 5) 斎藤将一, 1954: 前線性豪雨の移動法則について, 中央気象台, 研究時報, 6, 230~237.
- 6) 渡辺和夫, 1959: 降雨群の事後効果を主とした天気現象の研究, 日本気象学会機関誌, 気象集誌, 37, 164~189.

久保欣三君の殉職をいたむ

久保欣三君, 君の御霊は5月29日絶海の孤島マーカスに忽然として眠ってしまった。去る日交替して帰港の途についた吾々は船中で君の訃報に接した。7年の永きに亘って鳥島, マーカスの孤島勤務に尽した君が, 前途有為の生命をこのように終ろうとは、驚きと恐れの中で痛恨を押えることができなかった。君は19年6月陸軍気象部・20年4月気象技術官養成所本科に入り23年3月卒業し高層課勤務・23年12月潮岬測候所・31年3月離島課に転じ, 以来常に優秀な技術と堅忍不拔の努力をもって気象業務の先端で働いていた。君の現業技術者としての生

活は華やかな脚光を浴びることはなかったが, その温厚誠実な性格は「久保やん」「久保やん」と皆に敬愛されて, 殺伐な孤島暮らしに薫風颯蕩の慰めを与えて呉れた。地味ではあるが黙々と働いていた君の生活にこそ, 気象の業務と学問を支える基盤があったのだと今しみじみ考える。そして多かれ少なかれ君の経た生活と同じような環境にある気象界の多くの人々の上に, 君の死は大きな波紋となって拡がってゆくだろう。安らかに眠れ、久保君の御魂よ。

気象庁 離島課 藤野 六雄

IGY および IGC のオゾン観測資料について

July 1957~Dec. 1958 の IGY (国際地球観測年) と, Jan~Dec. 1959 の IGC (国際地球観測協力年) に, 世界各地のオゾン観測所の観測値はWMOで定めて標準型式 Form 0-1 (オゾン全量) Form 0-2 (反転観測) でWMOのデータセンターに報告された。日本でも札幌, 館野, 鹿児島, 鳥島, マーカス(第5地区)の報告を行なった。

これらの報告を収集して, 1961年, 気象データセンターでは出版したが, この形式は報告をそのまま縮小版にしたものをカード式にまとめたものである。

内容は, IGYにおけるオゾン全量と反転観測, IGCのオゾン全量と反転観測の資料であって, 次の観測地点のデータが含まれている。

以上が一組となっており, 気象庁で5組購入, 最近入手

		内 訳							
		地区→							
		I	II	III	IV	V	VI	P	
IGY	オゾン全量	58カ所	2	14	1	8	7	24	2
	反転観測	21カ所	1	9	0	3	3	4	1
IGC	オゾン全量	55カ所	4	12	0	9	7	22	1
	反転観測	17カ所	1	8	0	3	2	2	1
		地区々分							
I	アフリカ	II アジア							
III	南アメリカ	IV 北, 中央アメリカ							
V	南西太平洋	VI ヨーロッパ							
P	極								

しました。

資料は, 本庁図書課1組, 本庁高層課2組, 気象研究所1組, 高層気象台1組保管されているので, 調査, 研究に利用されたい。 C I G (国際地球観測委員会)

国内気象委員 北岡 龍海